

# 第27回 さんぽを楽しむ会 実施報告

## 「迎賓館赤坂離宮とその周辺の赤坂のさんぽ」

令和6年11月5日(火)、旭川東高等学校東京同窓会第27回「さんぽを楽しむ会」は、迎賓館赤坂離宮とその周辺の赤坂のさんぽにでかけました。参加者は東高7期から39期までの総勢27名でした。ガイドは24回からお願いした東京シティガイドクラブの朧(みかづき) 勲さんと、石川なつ代さん、葛西博和さんの三人です。

午前9時45分、東京メトロ四ツ谷駅赤坂方面改札を出たところに集合。旭班、川班、東班の3班に分かれて、いよいよ散歩を開始します。

まずは、少し色づいてきたユリノキの街路樹のある通りを歩いて迎賓館赤坂離宮を目指します。国宝に指定されている正門を横に見て右側の参観者入口へ進みます。さすが、国賓をお招きする場所のため飛行場と同じくらいにセキュリティが厳重



四ツ谷駅改札前に集合して出発式



国宝の迎賓館赤坂離宮正門前にて「旭班」集合

です。入場券と簡単なパンフレットを手にいざ迎賓館へ。あとで豪華なパンフレットを手渡されました。入館料が高いのも納得です。

迎賓館赤坂離宮は、各国の要人をお迎えし、外交活動の華やかな舞台です。片山東熊(1854~1917)が総指揮を執り、明治42年(1909)に東宮御所として建設された、日本では唯一のネオ・バロック様式による宮

殿建築物で、平成21年(2009)に行われた大規模改修工事の後に明治時代の建築としては初めて国宝に指定されました。昭和49年(1974)から迎賓館として使われていますが、明治では大正天皇が皇太子の時の住まいとして建築されました。その後は、いろいろな使い方をされていたそうです。

正面玄関の玄関ホールは海外からの賓客を最初に迎える場所です。深紅の絨毯が白黒の市松模様の床に敷かれています。この印象的な市松模様の白い部分は創建当時のイタリア産大理石ビアンコ・カララが、黒い部分には昭和の大改修で張り替えられた宮城県産の玄昌石が用いられています。絨毯は中央階段から2階の大ホールへと続きます。

晩餐会が催される大きな部屋が「花鳥の間」です。白壁に金が目立つ部屋とは異なり、木曽産のシオジ材で板張りされています。壁面を飾るのが30枚の無線七宝です。モチーフは四季の花鳥図です。明治から大正にかけて活躍した日本画家の渡辺省亭(1852~1918)の下絵を七宝作家の壽川惣助(1847~1910)が焼成しました。頭上にはフランス人画家による24枚の花鳥の油彩画と、金箔に模様を描いた12枚の絵が飾られています。食事をする部屋にふさわしく狩りや仕留められた猪や鹿などのジビエも描かれています。130人の正餐を催すこの花鳥の間は国賓が主催するリターンバゲットの

迎賓館内は撮影禁止のため自主撮影した映像は有りませんが、代わりに克明な描写の報告文から想像の翼を広げて思い浮かべてみてください！ なお、館内の映像やイラスト等はウェブサイト上の各種掲載情報を参照できます。

会場です。図書館として使用されたころの汚れを落とすのが大変だったとのこと。

正面玄関を上がった大ホールでは、8本のイタリア産大理石のプレッシュ・ビオレットが使用された大円柱が圧巻です。白を基調とした壁に柱の赤紫色の斑紋がアクセントとなっています。その中に混じる模造大理石が、技術の高さを偲ばせます。

「彩鸞の間」は、賓客が最初に案内される控えの間でしたが、今では総理大臣が外国元首との首脳会談や条約調印にも使われているそうです。部屋の左右に暖炉があり、それぞれのマントルピースと大鏡の上に、金色に輝く羽を広げた鳥のレリーフがあります。これは中国の想像上の鳥である「鸞」で、国が栄えている時に現れるといわれています。室内は野戦テントの天幕をイメージさせる天井、鎧、兜、剣、スフィンクスなどの金箔レリーフなど、随所にナポレオン1世の帝政時代の華やかさを取り入れています。

大ホールに面した「朝日の間」の入口両脇には、昭和の大改修の時に描かれた洋画家・小磯良平（1903～88）の『音楽』と『絵画』の油彩画が飾られています。「朝日の間」は、国賓が天皇皇后両陛下とお別れの挨拶をする最も格式の高い部屋です。室内の四隅の燭台やフランスから創建時に輸入された椅子やシャンデリアがとても豪華です。明治42年の創建当初から電気があり、シャンデリアは蝋燭ではなく電球を使っていたとのこと。天井を飾る絵は朝日を背にした女神が描かれています。左手に月桂樹の枝を、右手に手綱を握り、四頭の白馬が引く黄金の車に乗り、髪をなびかせて天空を駆けています。天井の下には陸軍や海軍を象徴するモチーフの絵画も描かれています。桜花を文様とする緞通やビロードのカーテンは新たに製作されたものです。壁には白地に金に輝く桐の紋とその下には緑色の紋ビロード織があしらわれています。

迎賓館赤坂離宮最大の広さの部屋が「羽衣の間」です。オーケストラボックスを備え、壁には和洋の楽器や仮面のレリーフがあしらわれています。かつては舞踏室とも呼ばれていました。雨天時の歓迎式典や晩餐会の招待客に食前酒をふるまう場などで使用されています。3基のシャンデリアも迎賓館赤坂離宮では最大の物です。天井画は、謡曲「羽衣」の「虚空に花ふり音楽聞きこえ、霊香四方に薫ず」の一節をフランス人画家が描いたものです。水色の空に白い雲が描かれた中には天女の姿はありません。下のフロアで踊る舞踏会の淑女を、羽衣を身にまとい優雅に舞う天女になぞらえたといわれています。そこに置かれているエールピアノは、かつて皇族方が演奏されたこともある、19世紀末のピアノで、現在のピアノが88鍵あるのに対し90鍵ある珍しいものです。

四つの部屋を見学し終えて、狭いかつては使用人が上り下りした階段を下って外へ出ます。壁にも触れてはいけない迎賓館赤坂離宮の

中で、唯一触れて良いのが手すりということです。また、途中の窓からは屋根を飾る天球儀が良く見えます。

噴水がある主庭には各国の国賓たちが植樹した木々があります。正面玄関にまわり、アーチ形に弧を描く建物の前で記念撮



迎賓館本館を背景に参加者全員集合

影をしました。欧風な建築の中に破風の鎧武者など随所に日本的な要素がちりばめられている明治建築を堪能しました。



喰い違い見附跡から弁慶堀を望む

迎賓館を後にして喰い違い見附跡へ向かいます。喰い違い見附跡は、慶長 17 年（1612）につくられた江戸城外郭門で唯一、石垣ではなく土塁による城の出入り口です。21 世紀に残る江戸城の貴重な遺構の一つです。堀の下には上智大学のグラウンドが見えます。明治 7 年（1874）にここで不平士族による岩倉具視（1825～83）暗殺未遂事件があり、それを喰違の変というそうです

ちょっときつい階段を上りホテルニューオータニへ。その日本庭園は、江戸城外堀に囲まれ約 1 万坪の広さがある都会のオアシスです。宿泊客のみならず一般にも開放されています。

池や滝がある大名庭園は、もとは加藤清正（1562～1611）の下屋敷であり、後に井伊家中屋敷という 400 年余りの歴史ある庭園です。ホテル内を拙さんの案内で進むと庭園の入口です。そこには、佐渡の金山から運ばれた高価な庭石の巨大な赤玉石があります。この重さ約 22 トンの赤玉石は日本一の大きさといわれています。赤玉石を配した枯山水の庭を進み、池のほとりに出ます。そこにあるクロマツの化石は、根が化石となった珍しいものです。



加藤清正の庭石だった赤玉石



暗殺された大久保利通の哀悼碑

次に向かった清水谷公園は、紀州徳川家と井伊家の屋敷の境から湧き出す清水から清水谷と呼ばれたところにあります。そこには喰い違い見附のすぐ先の紀尾井坂で明治 11 年（1878）に暗殺された大久保利通（1830～78）の哀悼碑が建っています。

大都会のオアシスのような清水谷公園から赤坂プリンスホテルクラシックハウスへ向かいます。

ここは、李王家東京邸として、宮内省内匠寮の設計により昭和 5 年（1930）に竣工した洋風建築です。外観はチューダー様式を基調としています。レストランなので外観のみの見学ですが、ステンドグラスが素敵な洋館です。昭和初期の皇室の邸宅建築としての特性がよく表現されており、意匠的に優れ、歴史的意義も高いものです。プリンスホテルの社名は、西武グループの堤康次郎（1889～1964）が太平洋戦争敗戦に伴い行われた皇籍離脱後、生活に困窮した旧宮家の土地を購入し、ホテルを開業した事に由来します。



皇室の邸宅であった赤坂プリンスホテル\_クラシックを背に「川班」集合

見学を終えて東京メトロ赤坂見附駅へ。ここで東京シティガイドクラブの案内は終了。地下鉄丸ノ内線で一駅四ツ谷まで戻り昼食会場の「中国菜酒 蜀留香（しょくりゅうこう）」へ向かいます。さんぽを終えたあとは冷えたビールでの乾杯。おいしい餃子やピリ辛の麻婆豆腐でおなかもいっぱいになり楽しい昼食会となりました。

今回は約 8000 歩の散歩で、迎賓館赤坂離宮と赤坂周辺のさんぽを満喫しました。都心のわりにアップダウンがあり、日頃足腰の鍛錬を怠ってはいけなとあらためて肝に銘じたさんぽでもありました。東京シティガイドクラブの拙さん、石川さんと葛西さんの詳しいお話も、大変わかりやすくなったと思います。次回は、2025 年 5 月中旬、都内の見学を予定しています。多くの旭東 OB、OG の皆様の参加をお待ちしております。（執筆：27 期 砂澤祐子、割付他：18 期 徳田光雄）



四ツ谷駅傍の中華食事処「蜀留香」に落ち着き、待望の乾杯！



ここで「東班」集合

い餃子やピリ辛の麻婆豆腐でおなかもいっぱいになり楽しい昼食会となりました。

今回は約 8000 歩

の散歩で、迎賓館赤坂離宮と赤坂周辺のさんぽを満喫しました。都心のわりにアップダウンがあり、日頃足腰の鍛錬を怠ってはいけなとあらためて肝に銘じたさんぽでもありました。東京シティガイドクラブの拙さん、石川さんと葛西さんの詳しいお話も、大変わかりやすくなったと思います。次回は、2025 年 5 月中旬、都内の見学を予定しています。多くの旭東 OB、OG の皆様の参加をお待ちしております。（執筆：27 期 砂澤祐子、割付他：18 期 徳田光雄）

【補追】 昼食会スケッチ



会長あいさつ さんばは楽しいね！



幹事長あいさつ 今日ではよかったね！



とってもよかったです！

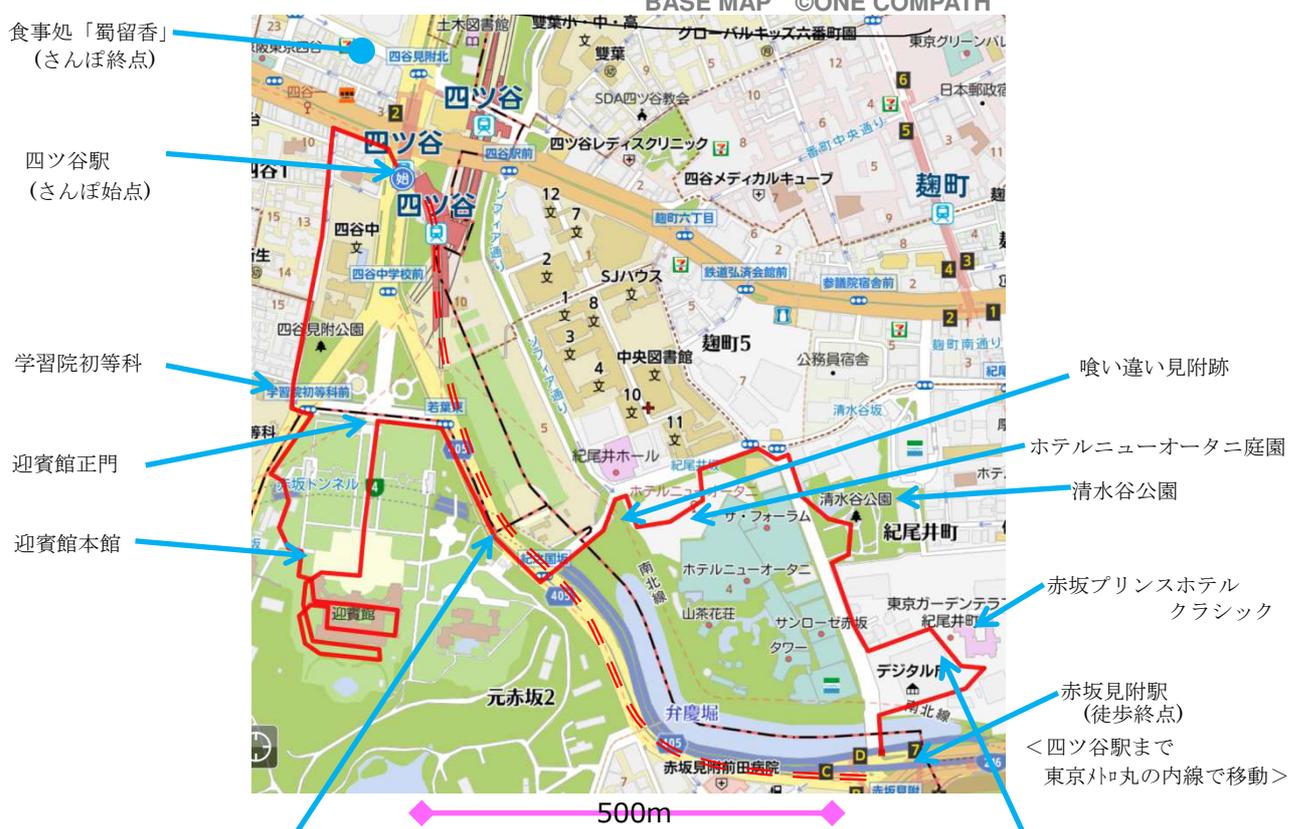


気持ちよく歩けました！



しっかり楽しめました！

【補追】 今回のさんぽルート ≡ 赤色折れ線



紀之国坂を喰い違い見附跡へ向けて歩く



案内人の説明に聴き入る「旭班」の皆さん